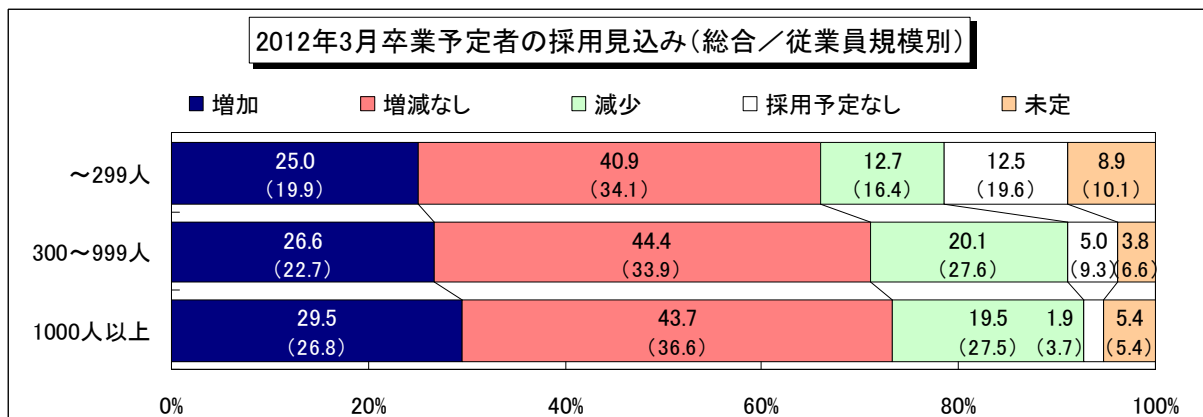
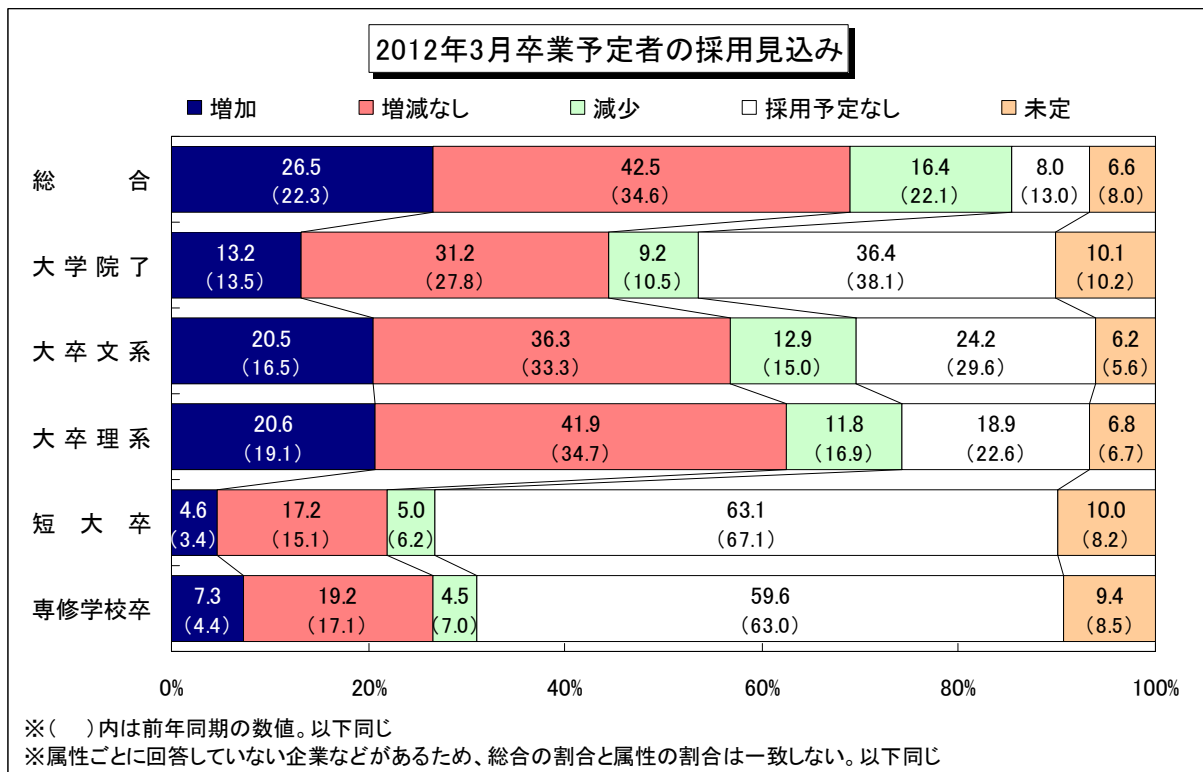


「採用活動に関する企業調査」アンケート結果

～ 2012年3月卒業予定者等の
採用活動に関する企業調査<6月調査> ～

1. 2012年3月卒業予定者の採用見込み

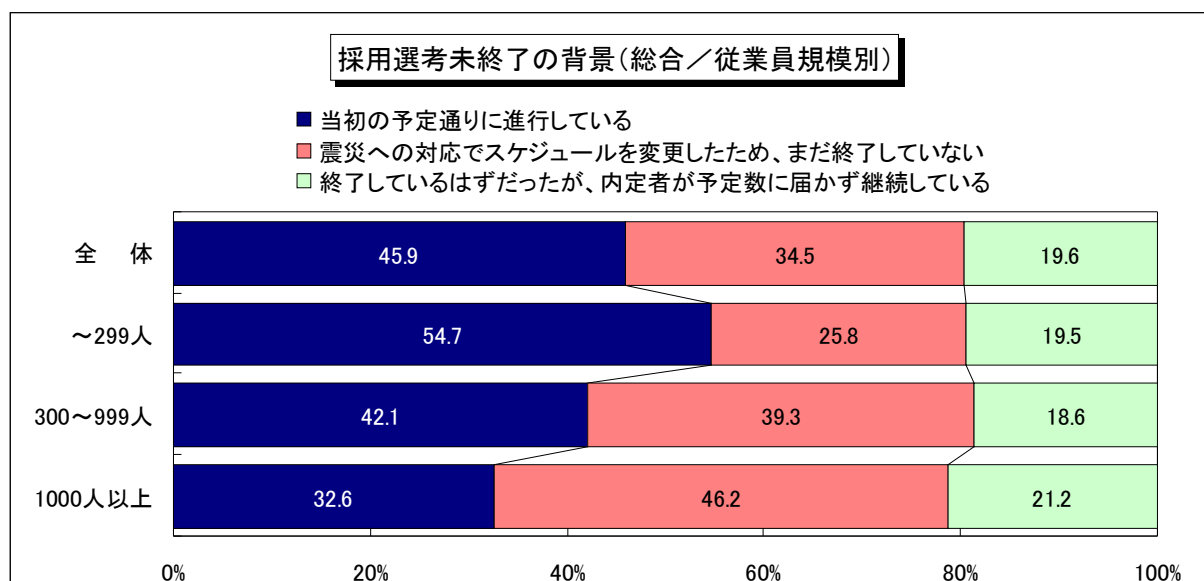
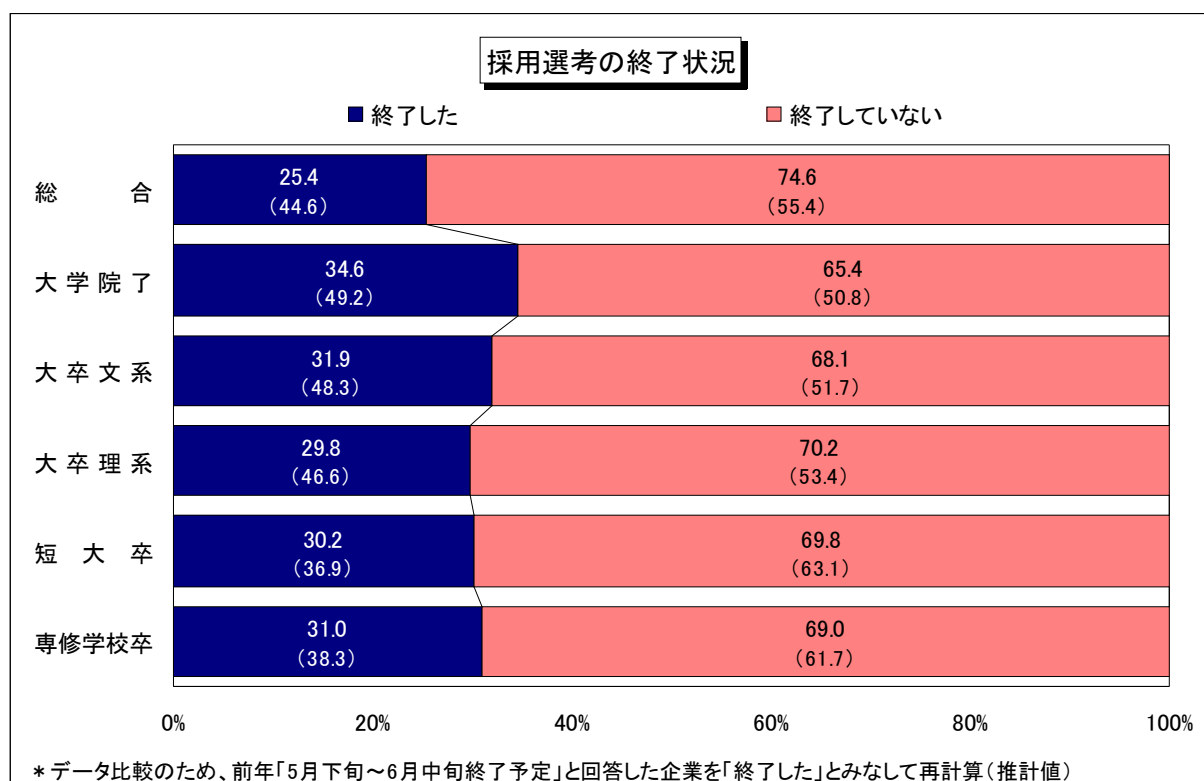
2012年3月卒業予定者の採用見込みは、全属性の総合では、「増減なし」が42.5%と4割強を占める。一方で「増加」と回答した企業は26.5%で全体の4分の1にのぼり、「減少」の16.4%を10ポイント以上上回っている。従業員規模別で見ても、規模の大小を問わず「増加」が「減少」を上回っており、採用数の増加傾向は、全体的な動きだということがわかる。2月の前回調査時点でも、総合で「増加」が「減少」の2倍近くに上るなど、新卒採用市場は回復の兆しを見せていた。後に発生した東日本大震災の影響による企業活動の停滞が影を落とすことも懸念されたが、調査時点では、影響は限定的と見られる。



2. 採用選考の終了状況

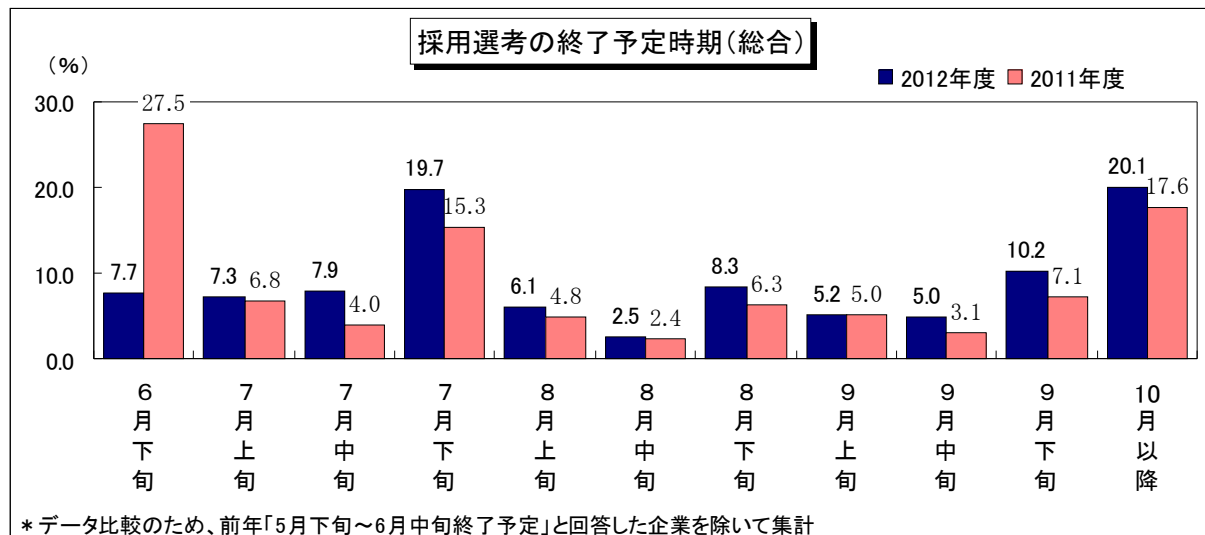
調査時点（6月16日～24日）で、採用選考を「終了した」企業は全属性の総合で25.4%。前年同時期（推計値）の44.6%を20ポイント近く下回る。属性別でも、ボリュームゾーンである「大卒文系」「大卒理系」で約7割が「終了していない」と回答しており、7月を目前にしてなお多くの企業が選考の只中にあった。

選考が終了していない背景については、「当初の予定通りに進行」が45.9%で、半数近くを占める。「震災への対応でスケジュールを変更したため」は、全体では34.5%だが、従業員1000人以上の大手企業に限って見ると、半数近くが背景として挙げている。「終了しているはずだったが、内定者が予定数に届かず継続」はすべての企業規模で2割程度にとどまった。



3. 採用選考の終了予定時期

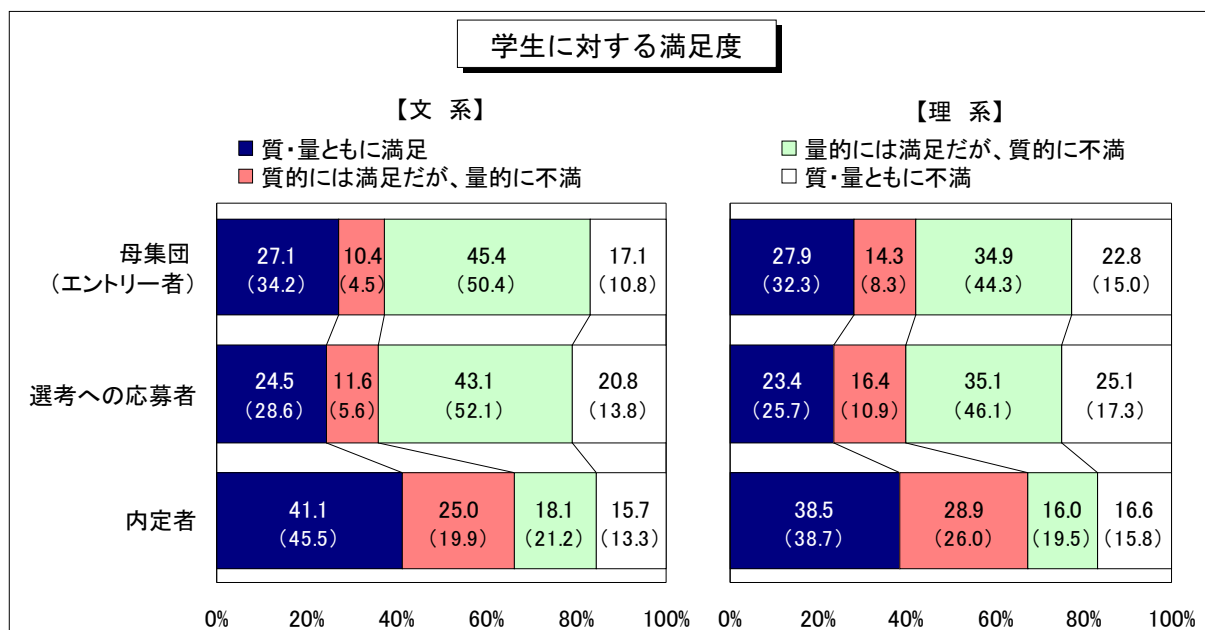
採用選考を終了していない企業の「終了予定時期」のピークは、「7月下旬」で19.7%。ただし、前年の「6月下旬」(27.5%)のように突出したものではなく、幅広く分散した格好だ。例年、4月に選考を開始する大手有力企業が5月、6月へと選考開始時期を遅らせたため、各社の「終了予定時期」に影響が出ているようだ。



4. 学生に対する満足度

学生に対する満足度を、採用活動のフェーズごとに見てみると、母集団(エントリー者)、選考への応募者については、「量」の面で不満を持つ採用担当者が増えていることがわかる。「量的には満足だが、質的に不満」が文系・理系を問わず、前年に比べ5ポイント以上減少。さらに「質・量ともに不満」が7ポイント前後増加している。

一方、内定者については、「質・量ともに満足」が文系・理系ともに約4割を占める。ただし、前年に比べ「量的には満足だが、質的に不満」が減少し、「質・量ともに不満」が増加している傾向は母集団(エントリー者)、選考への応募者と変わらず、「量」の面での不満はここでも高まっている。

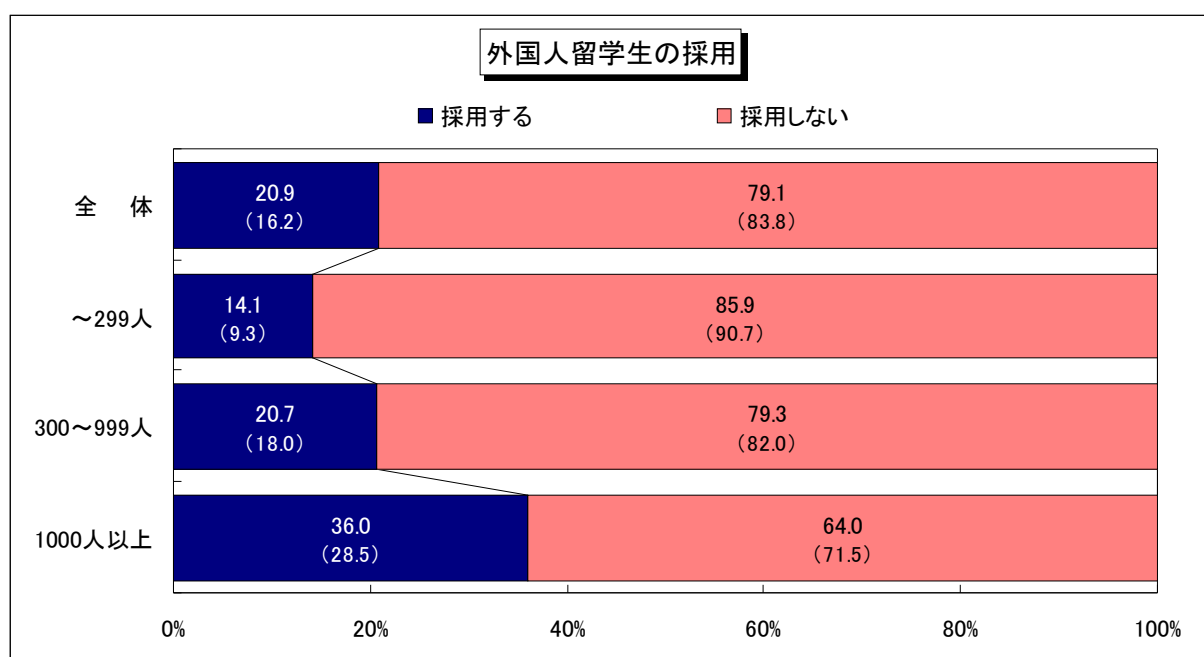
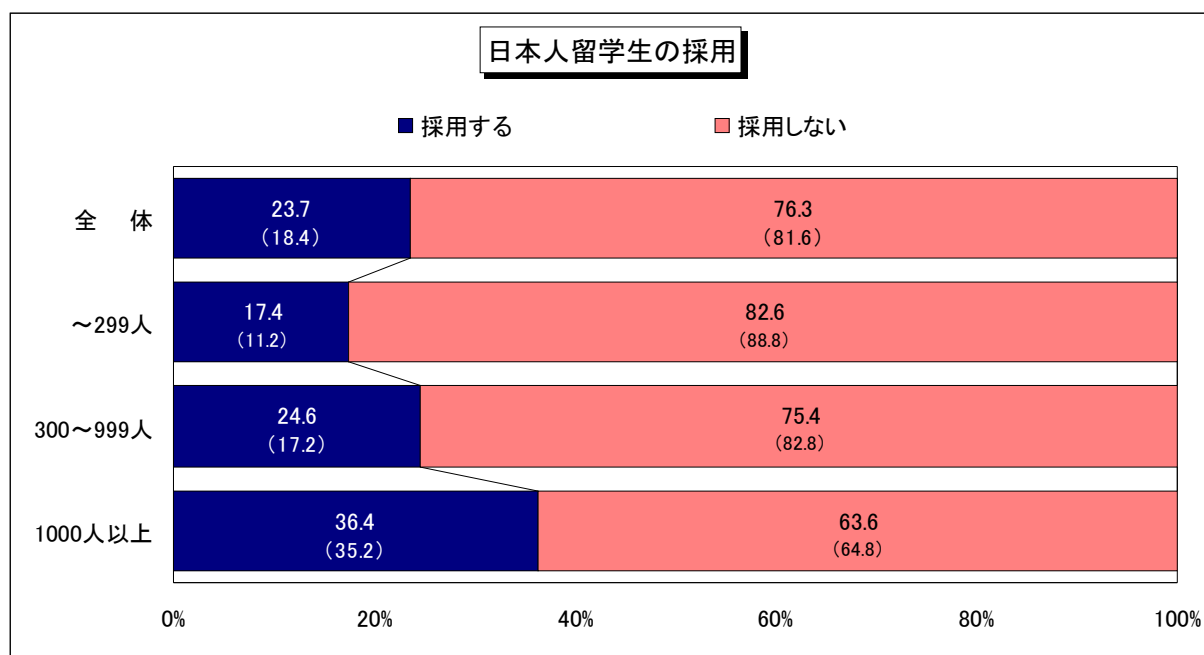


5. グローバル人材の採用

グローバル人材の採用について聞いた。今年度（2012年度）、海外の大学で学んでいる「日本人留学生」を採用する企業は全体の23.7%。前年の18.4%から5.3ポイント増加している。従業員規模別では、1000人以上の大手企業が36.4%と4割に迫るが、増加幅で見ると、300～999人の中堅企業、300人未満の中小企業の方が大きくなっている。

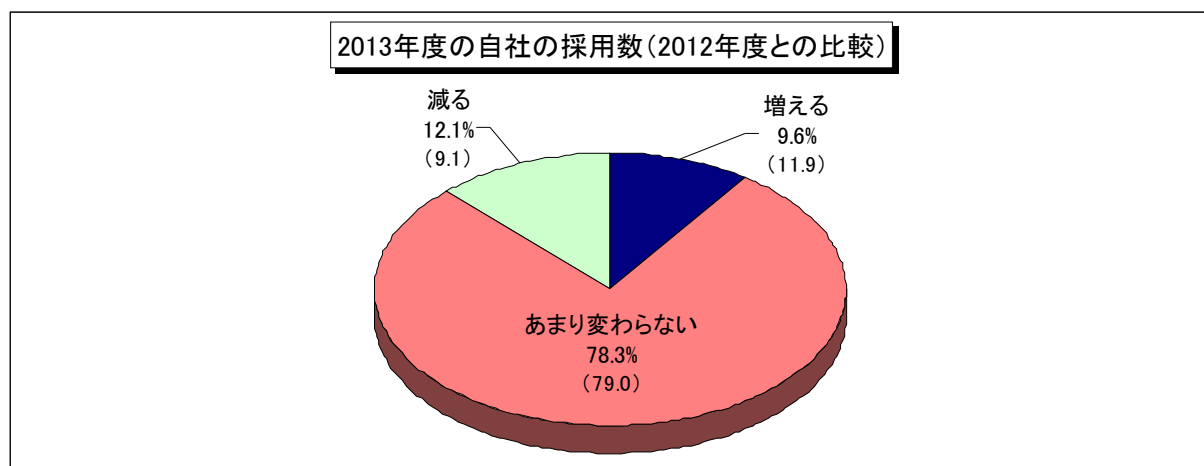
一方、日本の大学で学んでいる「外国人留学生」を採用する企業は全体の20.9%で、前年の16.2%から4.7ポイント増加した。従業員規模別にみた増加幅では、大手企業が7.5ポイント増、中小企業でも約5ポイント増と高い伸びを示している。

大手企業を中心に高まってきたグローバル人材に対する注目度は、中堅・中小企業へと、すそ野を広げつつあるようだ。



6. 2013年度の自社の採用数

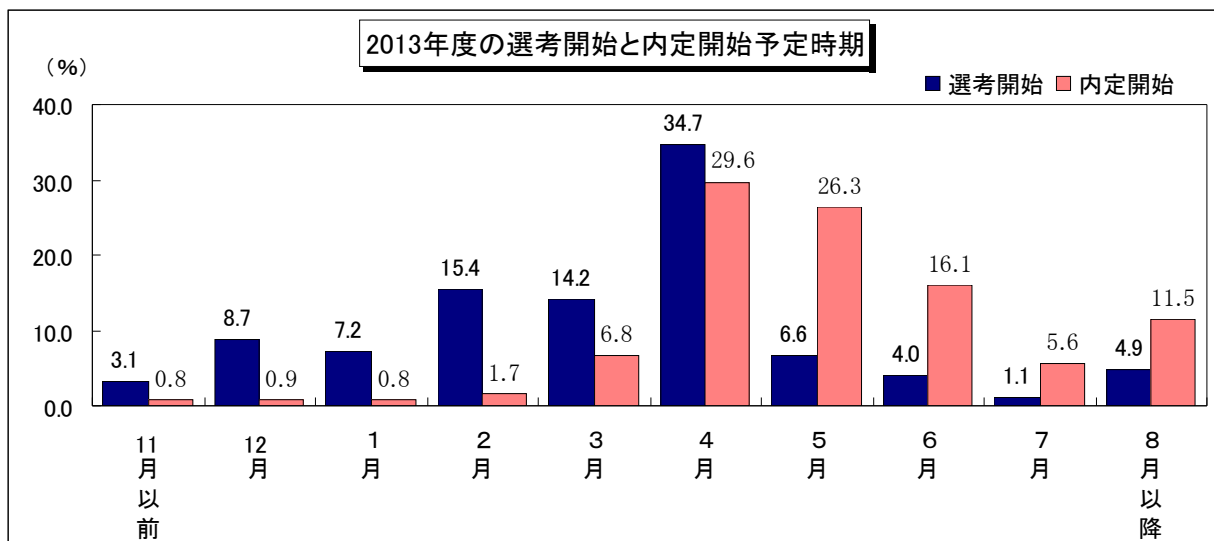
今年度と比較して、来年度（2013年度）、自社の採用数が「増える」と回答した企業は全体の9.6%。「減る」の12.1%をわずかながら下回った。増加傾向にあった今年度と「あまり変わらない」と考えている企業は78.3%と8割近くに上るが、「景気回復の見通しも立たないので、安易に採用数を増やすこともできない」（フードサービス）といった声も多く、採用計画を決めかねている企業も少なくないようだ。



7. 2013年度の選考開始と内定開始予定時期

来年度、4月の選考開始を予定している企業は34.7%で、3社に1社を超える。次いで多かった時期が2月の15.4%、3月の14.2%であるので、4月への集中度の高さがわかる。2013年度の倫理憲章で、採用広報の開始が10月から12月に変更されることとなったため、広報期間の不足を懸念する企業も少なくない。例年3月以前の早期に選考を開始してきた企業では、広報期間の不足を補うため、選考開始時期を4月へと遅らせる動きがあっても不思議ではないだろう。

内定の開始時期については、4月を予定している企業が29.6%、5月が26.3%で、この2カ月間で過半数の企業が内定出しを予定している。その一方で、「大手が採用を遅らせる可能性もあるため、長期での採用活動を想定している」（建設・住宅・不動産）という企業もあり、6月以降の内定出しを予定している企業の合計も33.2%と3分の1にのぼる。



8. 2013年度採用に向けて大きく見直しが必要なもの

2013年度の採用に向けて大きく見直しが必要なものとして、最も多くの企業に挙げられたのは「セミナー・会社説明会の内容や対象」で38.1%。以下、「大学との関係」34.2%、「選考日程」33.2%と続いた。いずれも前年より数値を上げており、前年、最も多くの企業に挙げられた「選考プロセス」は第4位となった。採用広報の12月開始や、倫理憲章により厳格化されたインターンシップの在り方など、これまでにない変化を前にして、採用活動の過渡期を反映した順位となっている。



【Voice】——来年度の採用市場について

- 今年度は、震災等による先行き不透明感が強かったが、来年度以降は、復興等が本格化する中、採用も活況を呈するのではないのでしょうか。 <鉄鋼・非鉄・金属製品>
- 産業による差が大きく、採用が減る業界、増える業界に分かれるのではないかと。総じて全体としては増加傾向と思われる。 <情報処理・ソフトウェア>
- 2013年度の倫理憲章により採用活動期間が短縮されるため、有力校を除く一般大学の学生と中小企業のマッチングがさらに困難となり、結果として採用市場は縮小する。 <調査・コンサルタント>
- 景況感等を考えると、採用市場は拡大するよう感じる。一方で外国人留学生の採用も加速すると思われるので、国内の大学に通う日本人学生の間では、内定獲得を優先した活動が増加する懸念も感じている。 <運輸・倉庫>
- メーカーや一部の企業では持ち直しの兆しがあるように報道されていますが、震災の影響が出始めるのは、これからだと考えます。採用市場全体でも、これから影響が出始める可能性がありますので、全体としては縮小傾向になるかと思えます。 <専門商社>

《調査概要》

調査対象 : 全国の主要企業 16,718社
 調査時期 : 2011年6月16日～24日
 調査方法 : インターネット調査法
 回答社数 : 1,174社
 調査機関 : 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ